

(別紙1)

事業報告書

事業名	中高生の未来応援プロジェクト
申請分野	団体指定寄附・分野指定寄附 (子ども 分野)
目的	<p>※事業がどのように対象者・利用者の利便性の向上や支援につながったかなど、事業の目的を記載してください。</p> <p>思春期時代の中高生に対し、命の大切さと自分自身の未来を考えるきっかけを創り、自己肯定感を高めると共に、未来に対し夢を持つ機会に繋がった。取り巻く大人の学びや、子どもの育つ環境の意識啓発、また子育てすることのウエルビーイングにも繋がった。</p>
事業実施の地域及び対象者	<p>※実施する事業内容の対象地域、対象者数について記載してください。</p> <p>対象地域：丸亀市を中心に中讃地域 対象者：中高生と取り巻く大人 対象者数：のべ中高生 1,536 人・のべおとな 160 人</p>
具体的な事業内容	<p>※実施した事業内容について、具体的に記載してください。</p> <p>① 中学校出前講座「助産師によるいのちの講座」の開催 市内中学校生徒に向けて妊娠・出産・育児や性に関する講座を市内東中学校(3年生)、西中学校(3年生)、南中学校(2年生)の3校に行う。 助産師の講話と、妊婦ジャケットを使っての妊婦体験や赤ちゃん人形を使って抱っこ体験など、子育てに係る疑似体験をする講座。子育て支援者も講座に参加し実践的に学んだ。</p> <p>② 赤ちゃんふれあい教室 いのちの講座を行った学校3校(3年生)対象に、0歳児の子育てをする親子が出向き、中学生に自分の出産や子育てについて語ったり、赤ちゃんを実際に抱っこさせてあげたり、リアルな交流を行う場を作った。</p> <p>③ 中高生の居場所「テラ☆ティーンズ」の開催 学校でも家でもない第3の居場所として、思春期の子ども達が集える場を作り、様々な大人にも関わってもらい、多様な生き方を学んだり、遊んだり、食事したり、同世代で交流し合える場とした。</p> <p>④ 思春期を見据えた子どもとの関わり方講座の開催 子どもを取り巻くおとなに対し、子どもの自己肯定感を高めるためには、どのように子どもに関わっていったらよい</p>

	かアドラー心理学に基づく「ほめない叱らない」子育てのコツを学ぶ講座の開催をした。
事業実施の効	<p>※事業の実施がどのように今後の法人活動の活性化や基盤強化につながるのかを具体的に記載してください。</p> <p>○人材育成：活動に関わることで知識や意識の向上に繋がっている</p> <p>○地域との繋がりづくり：今まで関わりのなかったおとなたちが関わることで、子ども支援のきっかけを作り、その輪を広げられた</p> <p>○社会的信頼性の向上：教育現場へ出向くことで得られる信頼性が高まった</p> <p>○事業展開の発展：事業の新たな基盤づくりとなり、今後の事業展開を広げられる</p> <p>○社会的認知の拡大：教育現場や幅広い地域とつながり、団体の活動の周知により、認知を広め、地域からの支援や強力を得られやすくなる</p> <p>○中高生との繋がり：中学校に出向くことで、子ども達に団体の存在を知ってもらう機会になり、中学生の職場体験や中高生の活動ボランティアに繋がっている。</p>
備考	<p>※その他、特にPRしたいこと等があれば記載してください。</p> <p>今回、丸亀市内中学校 3 校に出向けることができたことは、今まで培ってきたスキルと人材、またネットワークがあってこそと受け止めている。出前講座に対して中学校からは、是非、継続的な取り組みとしてやって欲しいと熱いエールを受けている。また、不登校の生徒が、「赤ちゃんが来る」ということで、学校に出向いてくるという状況があり、赤ちゃんの力を強く感じる場面に出くわしたことで、団体として、不登校支援の取り組みを考察する中、大きなヒントとなっている。</p>

(注) 枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

(別紙2)

事業実施のスケジュール

年 月	活動内容	対象者	参加者数
R5 5/17 7/28 8/29 9/20 10/13	① 中学校出前講座「助産師によるいのちの講座」の開催 ➤ 事前打ち合わせ等 ・事前企画内容共有及び日程調整等含め打合せ(各学校)電話、メール及び訪問:5回 ・企画内容打合せ(スタッフ):5回 ➤ 市内中学校への出前講座 ＜講 師＞ 鈴木佳奈子氏(助産師・思春期相談員・公認心理師) ＜スタッフ＞ 子育て支援従事者を各時間3名配置 ＜対 象＞	・各中学校 家庭科教師 ・スタッフ ・助産師	各1名 2名 1名
R5.9/7 3コマ	・丸亀市東中学校 3年生 3コマ ※2クラスずつ 6クラス	各中学校生徒・教諭	・丸亀東中 216人 教諭3人
R5.10/3 1コマ R5.10/4 2コマ R5.10/6 1コマ	・丸亀市西中学校 3年生 4コマ ※2クラスずつ 8クラス		・丸亀西中 274人 教諭4人
R5.10/17 2コマ R5.10/23 2コマ	・丸亀市南中学校 2年生 4コマ ※2クラスずつ 8クラス		・丸亀南中 252人 教諭5人
R5.10/18~ R6.2/20	＜内 容＞ 助産師の立場から、妊娠、出産、子育てについて人間の命の誕生のメカニズムをクイズも入れながら説明し、性の多様性など正しい知識を学ぶ場を提供した。また、子育て支援従事者スタッフを配置し、妊婦ジャケットを着用したり、赤ちゃん人形を抱っこしたり、妊娠子育ての疑似体験を行った。 ＜成果確認＞アンケート アンケート集計 生徒及び教員からのアンケート結果から ・理解度や満足度評価は、90%と高くなっている。 ・未来の自分について考えるきっかけに少しでもなったことを含めると90%以上になっており、求める機会になっている ・妊娠、出産、乳児に対する知識に繋がった ・妊婦への思いやりの気持ちの芽生え ・自分自身の生き方について考える機会になった ・助産師という仕事への興味や知識が増えた ・親や家族への感謝の気持ち		
R5.12/6.13	＜振り返り＞ 振り返り会議の実施 2回 ・子どもたちに基調な講座を提供できた。鈴木助産師の話は、命の誕生から、命の尊さを確信し未来をイメージすることに繋	助産師 スタッフ	1名 5名

	<p>がり、子どもたちの直な受け止めになっていた。赤ちゃん人形の抱っこ体験もうれしそうに行い、赤ちゃんへの興味を沸きださせていた。また、妊婦さんへのいたわり、命の感謝等への気持ちも芽生えている。学校側から、今後の開催も強く要望されており継続していきたい。</p> <p>赤ちゃん人形が借入いたものと購入したもので、十分な数になった為、全ての生徒がゆっくり抱っこする経験もできた。妊婦ジャケットは、数が限られていたのでみんなが体験することはできなかった。なるべく多くの子ども達に体験できるよう検討していきたい。</p>		
R5	<p>②中学校出前講座「赤ちゃんふれあい教室」の開催</p> <p>➤ 企画内容の共有、日程調整等 「命の講座」と共にセットで電話・メール及び学校訪問などによる協議</p>	各中学校 家庭科教師 スタッフ	各 1 名 2 名
5/17 7/28 8/23 9/20 10/13 他			
7/20～随時 8/24.29.9/1 随時	<p>➤ 乳児親子の募集</p> <p>➤ 「赤ちゃんふれあい教室」の説明会の開催 集団開催 3 回 個別対応 5 回</p>	協力親子 スタッフ	38 組 2 名
	<p>➤ 市内中学校へ出前講座 ＜協力者＞ 乳幼児とその保護者</p> <p>＜体制＞ 子育て支援従事者を 4～5 名配置 各コマ 8 組以上の親子の配置</p> <p>＜対象＞ ※「いのちの講座」とセット ・丸亀市東中学校 3 年生 3 コマ 各 2 クラスずつ 6 クラス</p>	スタッフ 親子	各日 4 名 のべ 92 組
R5.10/10 2 コマ 10/13 1 コマ	<p>・丸亀市南中学校 3 年生 4 コマ 各 2 クラスずつ+1 クラス 7 クラス</p>	3 年生生徒	・丸亀東中 216 人 親子 25 組
R5.10/24 2 コマ 10/30 2 コマ	<p>・丸亀市西中学校 3 年生 4 コマ 各 2 クラスずつ 8 クラス</p>		・丸亀南中 243 人 親子 23 組
R5.11/6 1 コマ 11/7 1 コマ 11/8 1 コマ 11/9 1 コマ	<p>＜内容＞ 0 歳児の赤ちゃんとその母親や父親が中学生に出向き、自身の妊娠、出産や子育てに関する経験の話をしたり、わが子である赤ちゃんを中学生に抱っこさせてあげたり、リアルな子ども・子育てのコミュニケーションを図る。 ＜成果確認＞生徒及び協力親子アンケート・</p>		・丸亀西中 274 人 親子 38 組
R5.10/18～ R6. 2/20	<p>➤ アンケート集計</p> <p>➤ 生徒、教員、親に対してアンケートから ・子どもを産み育てることの大変さと幸せ感を感じ取っている</p>		

<p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の子育てに対する知識に繋がった ・赤ちゃんとのふれあいの嬉しさや可愛さを感じ取っている ・将来、自身が子どもを持つというイメージに繋がった ・子育てするお母さんへのいたわりや感謝の気持ち ・中学生の子どもとの関わりが持てたことで子どもの成長を感じられた ・子育てすることが役にたてた喜びになっている <p><振り返り>アンケートを元に振り返りの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんが学校に来るといことで、不登校の子どもが、学校に来るとい状況もあり赤ちゃんの存在の大きさを感じた ・父親の参加もあり、父親としての子育て参画や、父親の育休取得促進のメッセージなど、今までになかった視点で子ども達に伝えられた ・実際の赤ちゃんと親と関わるこが、思春期の子ども達の感動と学びに繋がるこがよくみえた。 ・生命の尊さや今後の子どもを産み育てるこを深めた時間になっていた。 ・「いのちの講座」と「あかちゃんふれあい」は、学校側からも継続実施の強い要望が出ており、今後の取り組みも検討が必要。 ・参加した保護者から、中学生と触れ合う機会の新鮮さと子どもの成長を感じられて良かったといことと、子育てする自身が未来を担う子ども達のために役に立てたといことで自己肯定感に繋がっている。 <p>③ 中高生の居場所「テラ☆ティーンズ」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ゲスト交渉・打合せ ➤ 居場所開催 月1回(年間12回)18時～21時 <p><場 所> さぬきっずコムシアター施設内 な～や</p> <p><内 容> 地域のおとながゲストとなって関わり、講座や座談会、ワークショップなどを実施。ファシリテーターとしてスタッフ1名配置。食を通じての交流やふれあいの機会に繋げるテラ☆ティーンズカフェでの食事会を開催した。</p>	<p>スタッフ 協力父母</p>	<p>5名 15名</p>
<p>R5.4/22(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第1回 <p><ゲスト>なし</p> <p><内 容>フリートーク 近況や悩み</p>	<p>大学生</p>	<p>1名</p>
<p>5/20(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第2回 <p><ゲスト>なし</p> <p><内 容>フリートーク 近況</p> <p>ボードゲームであそぶ</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>2名 1名</p>
<p>6/10(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第3回 <p><ゲスト>高山由美子氏(元学校図書館司書)</p> <p><内 容>図書館司書の仕事について</p> <p>ペーパーシアター「ブルーのオーバー」</p> <p>トーク(部活、方言、防災)</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>2名 1名</p>
<p>7/8(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第4回 <p><ゲスト>浅野佑太氏(ファイナンシャルプランナー)</p> <p><内 容>生保会社の仕事について</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>1名 3名</p>

	<p>今の社会経済の課題 人生に係る3大費用とは お金を増やすとは マネープランゲーム</p>		
8/19(土)	<p>➤ 第5回 ＜ゲスト＞なし ＜内容＞遊ぶ（卓球、ボードゲーム）</p>	<p>高校生 大学生</p>	<p>2名 1名</p>
9/16(土)	<p>➤ 第6回 ＜ゲスト＞なし ＜内容＞フリートーク（部活、したいこと）</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>1名 1名</p>
10/21(土)	<p>➤ 第7回 ＜ゲスト＞道久礼子氏（整理収納&お掃除アドバイザー） ＜内容＞整理収納&お掃除アドバイザーの仕事について 整理・収納・整頓・片付け・お掃除とは 何のためか</p>	<p>中学生</p>	<p>3名</p>
11/11(土) ※4日から変更	<p>➤ 第8回 ＜ゲスト＞大田圭吾氏（中讃地域生活支援センター施設長） ＜内容＞焼肉パーティ 子ども～思春期生きてきた経験とそのころの目標 大学生時代 人生の転換期 生き方、受け止め方</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>9名 2名</p>
12/16(土)	<p>➤ 第9回 ＜ゲスト＞鈴木佳奈子氏 （助産師・思春期相談員・公認心理師） ＜内容＞たこ焼きパーティ 性についてのお話</p>	<p>中学生 高校生 大学生</p>	<p>7名 4名 1名</p>
R6.1/13(土)	<p>➤ 第10回 ＜ゲスト＞赤松昭史氏（ネイチャーゲームリーダー、会社員） ＜内容＞ネイチャーゲームとは ネイチャーゲームであそぶ</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>2名 1名</p>
2/3(土)	<p>➤ 第11回 ＜ゲスト＞なし ＜内容＞節分を楽しむ 手巻き寿司 豆まき 卓球、ボードゲームで交流</p>	<p>中学生 高校生</p>	<p>4名 3名</p>
3/2(土)	<p>➤ 第12回 ＜ゲスト＞鎌田大輔氏（卓球教室主宰者） ＜内容＞自身の若いころのおはなし 卓球教室をはじめたこと 卓球を教わる ※希望により3月での開催を早め追加実施</p>	<p>中学生 高校生 大学生</p>	<p>8名 4名 1名</p>
	<p>＜成果確認＞参加者へのアンケート及びヒアリング ・支援センターの大田さんの話は壮絶な人生でびっくりした。 やりたいことを見つけてやり続けることが大切だと思いました。 ・助産師さんのお話は、実験もして病気が広まる仕組みが良く 分かった 怖いと思った ・卓球をもっと思いっきりしたかった</p>		

	<p>・ボードゲームをみんなでしたのがすごく楽しかったです ・人見知りなので恥ずかしかったけれど、みんなとご飯を食べておいしかった ・焼肉が美味しかった ・手巻き寿司は海鮮類があれば良かった ・お好み焼き美味しかった 参加した子ども達の中から、学習支援や、フードパントリーなどの活動にボランティアで関わる子どもおり、NPOの取り組みに興味を持つ子どももでてきた。</p> <p><振り返り>ゲストとスタッフでの振り返り ・卓球やボードゲームで交流が図れ、違う学校の子も同士が知り合い仲良くなった ・食事を楽しみにし、みんなで食べ合う時間が和気あいあいと楽しい時間になった ・普段関わることのない大人の話が聞け、生き方に対して幅を広げることができた ・中高生が家、学校、塾以外の集う場所があるということを経験や地域の大人にも周知でき、関わる大人が増えた。 ・チラシを市内全公立中学校に配布したが、参加人数に反映されていない。行ったことがない所は不安も多いと予測できるが、アプローチの仕方の検討も必要である。未来を考える時、いろいろな大人との接点を持てる場も必要だと実施したが、元気で居場所のある子どもたちにはあまり必要と感じていないようである。今後は、課題を持つ子ども達に対する特化した居場所の視点も持ち、実施内容等も検討していきたい。</p>		
R5.12/16	<p>④ 子育て講座の開催 (WEB) 「思春期を見据えた子どもとの関わり方」 <場 所> 講座: 丸亀市市民交流活動センターマルタス 1F 託児: 丸亀市生涯学習センターまなびらんど <参加費> 無料 <内 容> アドラー心理学をもとに“叱らないほめない”受容型、勇気づけの子育ての理論、及び具体的手法を交えたワークショップもある講座 講師が現在ドイツ勤務のため、講師はオンラインで登壇 託児を設けた。</p>	どなたでも 託児子ども	68名 12名
8月～ 12/15	<p><講 師> 眞鍋登喜子氏(香川県出身、千葉大学教育学部卒業、養護教諭、メンタルコーチ、公認心理士) <スタッフ> 講座: 子育て支援従事者配置 託児: 保育者</p> <p><打合せ> 講師、スタッフで事前打ち合わせ開催(5回) 前日に当日会場にてWEBリハーサル実施</p> <p><成果確認>参加者アンケート ・非常に良かった及び良かったと答えた割合 97%と満足度が高かった</p>	スタッフ 講師& スタッフ	5名 6名

12/16 12/18	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションや対話の中でよりよくするためのノウハウを具体的に知れた ・具体例が沢山あって分かりやすかった。今日参加した「本当の目的は？」のワークがよかった。より深く自分の思いを探り気づけることができた ・ここ数日イライラしがちで心穏やかではなく、子どもにダメ出ししたり、自分の言動を見直す機会になった。 		
12/16 12/18	<p><振り返り> スタッフ及び講師での振り返り MTG (WEB)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くだけでなく、ワークが組み込まれていたため、理解がよくなり、話ができただけが良かったという声が多かった。 ・講師がオンラインでの登壇ということもあってか、予定していた参加者数をかなり下回ったのは非常に残念であったが、参加者の満足度が高く、参加者の熱心なアプローチから時間もオーバーしての講座になった。 ・1回のみでの講座ではなく、今後も繰り返し繰り返し伝えていきたい内容である ・事前リハも行ったが、オンラインのハプニングがあり、やはりリアルの良さを感じた。 ・伝えたいことをしっかり受け止めてもらえ、実行に移したいと答えた方が多く、子どもとの関わり方を具体的に求めている当事者に答えた内容になった。 		
R6.12/3. 1/20 2/10. 3/9.	<p>⑤「いのちの講座」プログラムの作成</p> <p><場 所> さぬきっずコムシアター内</p> <p><内 容> 助産師の「いのちの講座」を体験したのち、自分たち(子育て支援従事者)が実践運営できる講座プログラムを作成する。</p> <p><講 師> 鈴木佳奈子氏(助産師)</p> <p><作 成> 作成会議 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容検討 ・パワポ作成 ・修正 再検討 	子育て支援 スタッフ 講師	4名 1名
	<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム作成に今回出前講座に参加した子育て支援従事者と共に目的や内容を共有し、鈴木助産師の助言をいただきながら考察し、子育て支援者が発信する「いのちのお話」プログラムを考察した。今まで、助産師だからこそ伝えられる医学的なこと、知識経験を含めたものを体験してきたただけに、支援者が発信できるものを作るのはかなり難しいと感じられた。妊婦ジャケットや赤ちゃん人形を使った疑似体験を重視したもので検討はしているが、「いのち」について何をどのように伝えるかを再編集しており、残念ながら、プログラムの完成までには至っていない。来年度にかけて再構成していく。 		

(注1)いつ、どこで、何を、どのように、どのような体制で実施したかなどを、詳細に記載してください。

(注2)企画、準備、成果確認や実施後の振り返りなども含めて記載してください。

(注3)対象者や参加者数など事業の規模等が分かるように記載してください。

(別紙3)

収 支 精 算 書

【収入】

(単位：円)

項 目	金額	説 明
NPO基金補助金額	★1,271,281	
自己資金計		①+②+③+④
①参加料収入		
② 会費等		
③ 寄附金等	54,241	団体寄付分を充当
④その他		※内容を具体的に記載してください。
その他助成金等収入計		①+②+③
①補助金収入		
②委託金収入		
③その他		※内容を具体的に記載してください。
その他資金収入		
合 計	1, 325, 522	

(注)その他助成金等収入はNPO基金以外の助成金等を受ける予定がある場合に記載してください。

【支出】

項 目	金額	うちNPO基金 補助金充当額	説 明 (使途、積算根拠等)
給 料	336, 612	336, 612	※雇用契約での時給としており各自差額あり 【事業スタッフ費】 いのちの講座及びあかちゃんふれあい 9人分 53570円 中高生の居場所 1人分 12回 36085円 子育て講座・託児スタッフ 10人分 48997円 講座プログラム作成作業 3人分 4回 24960円 【事務担当スタッフ費】印鑑 1000円×173h=173000円
謝 金	240, 000	240, 000	いのちの講座(助産師) 10000円×11回=110000円 中高生の居場所(ゲスト講師) 10000円×6回=60000円 子育て講座(講師) 30000円 講座プログラム作成(講師) 10000円×1名×4回=40000円

旅費交通費	13,550	13,550	【出前講座】 講師：@20×往復距離 3校分 548円 スタッフ：@20×往復距離 3校8名分 6344円 【子育て講座】 スタッフ：@20×往復距離 10名分 2172円（保育者含む） 【事務局スタッフ】 @20×往復距離 4486円
賃借料	13,070	13,070	子育て講座及び託児会場費 10450円 WEB講座のためのポケット Wi-Fi レンタル料：2620円
印刷製本費	112,200	110,000	中高生の居場所ちらし @4.4×5000部=22000円 子育て講座ちらし @5.5×14000部=79200円 子育て講座横断幕垂れ幕 @5500×2部=11000円
備品			※10万円以下の為、消耗品に科目変更
消耗品費	547,381	524,700 22,681	新生児人形@88000×3体=264000円 妊婦体験ジャケット @86900×3着=260700円 赤ちゃん人形用産着 4433円 事務用品費(PPC用紙・インク代・あかあ ちゃんふれあい用マスク・袋)18248円
保険料	3,996	3,996	あかちゃんふれあい教室に係る保険
雑費	57,041	5,000	講師・スタッフ・協力母親等飲料水代等 17007円 中高生の居場所夕食代7回分 40034円
支払手数料	1,672	1,672	妊婦ジャケット支払い振込手数料 講師謝金振込手数料
合計	1,325,522	★ 1,271,281	

★の金額は一致するようにしてください。

(注) 補助申請事業についての収支精算額を記入してください。